

インド 二十世紀ナシがハリヤーナー州で拡大

[FreshPlaza 2025年7月10日](#)

ハリヤーナー州のラドワ郡では、インド・イスラエル亜熱帯果実センターの支援を受けて、「二十世紀」として知られる日本のナシの導入が進んでいる。この品種は健康に有益であると報告されており、生産者に経済的な利益を提示している。同センターのダランパル氏によると、2014年頃にルディアナ市(パンジャブ州)から試験的に導入された後、この地域での栽培が始まった。(以下「」は同氏の話)

約10年が経過した現在、収穫が始まっている。「可能性が見えた後、苗木の準備を始め、この日本の品種を求めてセンターを訪れた農家に配布した。苗木の需要が高く、十分に対応できていない。」

二十世紀ナシは、歯触りの良い食感とまろやかな甘さが特徴で、糖尿病患者にも適している。また、免疫力を高め、発熱時の助けにもなると考えられている。「二十世紀ナシは大きな利益を得る可能性を示しているため、農家はそれを植えることを熱望している。」

果実の価格は250~500ルピー(3~6ドル)/kgの範囲である。高い需要があるため、複数の有名企業が国内販売と輸出機会の両方について農家と契約を結んだ。ダランパル氏によると、1本の果樹の寿命は最大55年で、かなりの収量が得られる可能性がある。「農家が費用を負担するのは植え付けの時だけである。数ヘクタールで栽培した場合、果樹が実を付け始めたら、少なくとも2世代はその収入で生活できると自信を持って言える。」

出典: ETV Bharat

米国カリフォルニア州 カンキツグリーニング病検疫規制地域を拡大

[米国農務省動植物検疫局通知 DA-2025-28 2025年7月11日\(14日送信\)](#)

件名: APHISはカリフォルニア州のカンキツグリーニング病(HLB)検疫規制地域を拡大

宛先: 州、部族及び準州の農業規制当局担当官

米国農務省動植物検疫局(APHIS)は、カリフォルニア州食品農業局(CDFA)と協力し、*Candidatus Liberibacter asiaticus* によって引き起こされるカンキツグリーニング病(黄龍病; HLB)の同州内の検疫規制地域を拡大し、これは直ちに発効する。拡大される地域は、オレンジ郡コトデカザ地域の11平方マイル、同郡ランチョサンタマルガリータ地域の93平方マイル、リバーサイド郡ペリス地域の37平方マイル及びサンバーナーディーノ郡のランチョクカモンガ地域とサンバーナーディーノ地域の88平方マイルである。

これらの措置は、CDFAが2025年5月19日(オレンジ郡及びサンバーナーディーノ郡)、6月17日(オレンジ郡)及び7月1日(リバーサイド郡)に定めた州内の検疫と並行して実施される。APHISは、オレンジ郡、リバーサイド郡及びサンバーナーディーノ郡の住宅地から採取された植物組織サンプルからカンキツグリーニング病が検出されたため、この措置を講じるものである。この拡大の影響を受ける商業的柑橘類園地は、1.44エーカーである。

APHISは、カリフォルニア州の検疫規制地域からの規制対象物品の州間移動について、連邦規則集第7編第301.76条及び連邦命令に概説されている保護措置を適用している。これは、HLBが米国内の非感染地域に広がるのを防ぐために必要なものである。

カリフォルニア州の検疫規制地域の具体的な変更内容は、[APHISカンキツグリーニング病ウェブサイト](#)に掲載されている。APHISは、おってこの変更を連邦官報に掲載する。(連絡先等省略)

(訳注: 1平方マイル=約2.59平方キロメートル、1エーカー=約0.405ヘクタール)